



諸國
方言
物類稱呼
言語
九終

ホ 2
619
5止



加2
619
止

物類稱呼卷之五

言語

○大いなる事と云ふ事近おきた。云ふ事と云ふ事

今按に東國をもとむる事と云物の多き事と云ひて大いなる事と云は
用ひむと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
大いなる事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
古より大いなる事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
累々語と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

伊豆後河内五兵衛と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
○云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事



こみせのりくかちやうとくも所をまわらちとてうらうらと

〇わぢり金物の味ひ うすしや 魚の味に無味と云但江がうすしや 東にまての

まづいと云大和及播磨泉又ハ九段のうらまてのまみりといひ又とむな

いとよいちへ吉野の玉櫛の邑人蝦蟇と書て上味と食ふ者村

けく毛漆といふやう日本紀 出今云のしちんハとん物と云ふ

食ひハ物と云又或は桶川の沢をまて月めづり鱈と云つて鱈を

食ふやうとて東の人目智めづりを食ふとて俗説辨辨 委委とて

これ畧也

〇ほろとくつ視のうらハ大坂及播磨をまていびらと云と云東にまて

むぢらむぢらといひ又とせらむぢらといひと云いふとてむぢらといふ涅槃經

佛性者名曰無礙智とあれハ佛性のまてとて事なりとて又わぢ

らといふもほろとくつなり

〇まじりといふ事といふにてのんにむじり又びりといふ東國にまてのまじり

又むじりといふ房総海辺にまてのまじりといふまじりといふ事居申のまじり

と云ふ事申入む事わらばれぬと申居たたふらとてまじりといふ

と云ふ事申すのまじりといふ紙巻のまじりといふ萬葉集 ぼのふくれ

まじりといふとてまじりといふまじりといふまじりといふ

〇久しとていふのと云明のよふなるうらふ世に 西に在にやつと

といひ又ちつと云但し多い又うらふ 東に在む人ちか魚ちか魚に合傷合傷とてかたに

担持担持とてわらふ

「たの魚」として毒とハ高く持どもちつとてまじりといふのでまあり

〇あまの事とてまてといふ河のうらに東國にまてのまじりといふとて

まじりといふ河をまてといふ宇治拾遺 無無天骨とて或人曰東風東風に列谷

風とていふて地とてやとてまてといふまてといふまてといふまて

○他^いとてりつ河^かの武内^{ぶちうち}の者^{もの}がとふ東國^{あづま}までたのり又^{また}ねが^{ねが}又^{また}そ
 かりとて東國^{あづま}の木のま^まとて是のまのを^をお豊後^{ぶんご}までとて略後○とてか^かと
 ぶ素肉^{すく}及^及出^いせの換^かをたて○とてれとて太平記わ^わを^をこれらの物^{もの}
 秋^{あき}とてまで○に^につ法^はをそい^いとてとて及^及津^つ津^つまで○う^うがとふ又^{また}素肉^{すく}とて
 ○おれといひ對馬^{たいま}まで○あ^あの○こ^こや^や又^{また}そ^その^のか^かを^をく^くさ^さの^の人^{ひと}を^を罵^{のの}る^るに^にか^か
 今^{いま}按^あよ^よ萬葉^{まんやふ}の^のわ^わね^ねま^ま○わ^わけ^けも^もま^まか^か身^みの^の事^{こと}又^{また}あ^あれ^れも^も昔^{むかし}とて^と
 又^{また}く^くり^りあ^あれ^れとい^いふ^ふ使^しを^をに^にひ^ひ○秋衣あ^あれ^れわ^わも^もが^がま^まと^とた^たあ^あら^らや
 こと又^{また}源氏^{げんじ}の^のま^まや^や○枕草子か^かか^かの^の宇治^{うぢ}拾遺^{しゆい}か^かの^のつ^つま^まと^とま^ま今
 とい^いふ^ふの^のま^まに^にひ^ひう^う又^{また}そ^その^のま^ま其^ま奴^{やつ}ら^ら武^ぶは^はと^とま^まに^にか^かに^に對^{たい}して
 とい^いふ^ふ河^かく^く神代^{かみよ}決^{けつ}か^か女^め不^ふ志^し之^の有^あわ^わ秋^{あき}の^の汝^に不^ふせ^せう^う○^のま^まの^のこと^{こと}
 の^のま^まに^にま^また^たい^いと^とあ^あら^らひ^ひ又^{また}申^{まを}ふ^ふま^まの^の言^{こと}信^のみ^み國^{くに}か^かる^る事^{こと}も^もた^た
 こと^{こと}田^た守^しま

○自^{みづか}とてつ^つ河^かの^の豊後^{ぶんご}まで○わ^わが^がま^まと^とま^ま又^{また}か^かが^が等^らとい^いふ^ふも^もお^おか^かた^た
 又^{また}い^いふ^ふも^もか^かを^をお^おま^まより^{より}○正徹物語身^みが^が家^{いへ}に^に茶^{ちや}東^{とう}浪^{なみ}院^{いん}か^かと^と
 又^{また}い^いふ^ふなら^らとい^いふ^ふこの^{この}結^{むす}後^ごまで^{まで}法^は國^{こく}の^の通^と称^{しょう}東^{とう}ま^まと^とま^ま○^のま^まら^らま^ま
 中^{ちゆう}國^{こく}ま^まの^のう^うら^らま^ま 寄^よ田^{でん}百^{ひやく}姓^{せい}言^{ごん}葉^{えつ} 飛^と鳥^{ちゆう}井^い雅^{みや}章^{しょう}卿^{けい}
 田^{でん}を^をか^から^らに^にあ^あら^らも^も寄^よら^らも^もあ^あら^らま^まに^にう^うら^らま^まに^にう^うら^らま^まに^にう^うら^らま^ま
 ○^のま^まの^のあ^あら^らま^まとい^いふ^ふ事^{こと}を^を九^く次^じまで^{まで}○わ^わげ^げい^いと^とま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま 茨^{あざ}切^きと^とま^まか^かの^のま^ま及^及田^{でん}國^{こく}に^にた^たて^て○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま 伊^い勢^{せい}まで^{まで}○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 後^ご河^かより^{より}武^ぶ内^{うち}の^のま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま及^及尾^お原^{はら}近^{ちか}國^{こく}又^{また}と^とま^ま
 ま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま 梅^{うめ}に^にま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 と^とあ^あら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま
 ○^のま^まら^らま^ま○^のま^まら^らま^ま○^の

又事じやと云と京直の如きまてハ **何の轆**と云はめて云尾の如
して **何の事**と云と云はりし東國まてハ **何の轆**と云て云是等の
と云らうらうら此相違ハ風土のなるに由り也

○たのふらうと云の河のからまよと云まて。ろふのなると云 葉は **櫛櫛**ハ
俱に紅の具也曾補好忠のゆらの戸をけらる人かぢをあらえけ出
りてぬと云て一 弄考合まて一

○ある時と云事と長壽まて。何のなるせん云

○くさびまての事と もみしハ山伏の入澤修り
より習れる河と具来の流 我聞まて。えんご云 ちんちの轆
作らうら

○ろハ辛 伊勢まて。さんかうとけん又いごうまてと云 **薩**と云て。たつと
云東國まて。かつと云と云又まてと云 但來翁のころしと云と困
のまてらう 田入人いこらと云と云と云 又肥前の法災まて。ぬこのご
と云と云

○打擲まての事を犯前の平をまて。とらすらう河まて法災まてハ

。けくかうまてと云けくかうと云 かたは 大室の事と云て云まて。これつけ
ると云犯後まて。まいつと云 良基公 **袖葉日記**云神人と云らう

ららるるまてと有と云人をおとせると云 いふ 俣杖持かしてお
とたく。ふらといふ法まて。いふと云と云 いふ 奉まてにて打事 **成**

○ **ひら**と云まての事を **お**と云まて。志やうらと云むと云 いふ 実まて。おとら
かると云らうに居ると云 いふ 大和及伊勢伊勢まて。あづくと云ま
都まて。と云びと云と云 いふ まて。あづくと云と云 いふ 越あまて。あづ
と云犯あ及薩摩まて。いごうと云と云 いふ 犯後まて。いごうと云と云

葉におまてらうと云 **截**と云 いふ 龜の首尾まて いふ と云 いふ 似れ いふ かくと云
物 いふ ちんち いふ ちんち いふ 和漢三才圖會 **常樂**と云 いふ 又 いふ 又 いふ 又
と云 **脚** いふ **ソラ** いふ **ハ** いふ **坐** いふ **也** いふ **日本紀** **跌坐** いふ **也** いふ **うち** いふ **あ** いふ **ら** いふ **と** いふ **云** いふ **也** いふ **又**

胡未信より小舟也これより信よりあるや又らくとつ六直の字にあり
物と直より信よりを修くに信より直なるぬ人どろくでかゝる流
人の **アジキ** とも修くに居る事とす

○ひつとあると細のかゝるに本因して。わざらと云申かしてハ大流のりほぬ
と云考るに

○あとのふおしといふのと云お申東に。ことろもほのと云申す
へいもいよと云遠きまで。と云くもいよと云 **性理大全** 塗轍とあるは
又いよと。といけもいよといふは修する

○やちら ちらとつちと云か **源氏橋姫巻** 云ひめ君は修をやちらといふをてと云尾尻を圍てのこ
せくと云修修まで。やちくと云

○と云といふのを修のひそ。いよと云 **古文** 遠又いよと云又いよと云

ハあつて一也あつてはあつて一の修する細も

○目と修るといふ字を修及地前まで。と云いよと云 尾尻をいよと云

○明日の後日といふ字を修及未修まで。あつてと云あつてと云 あつてと云

○この和修のれハ日と云あれと修していよと云
と依てと云いよと云 いよと云

○あつてと云 日と云いよと云と云 あつてと云 日と云いよと云
東國まで。修ひよと云

○日と云いよと云と云 あつてと云 尾修まで。一昨日と云修修まで。二昨日と云

今按に尾修は純く一なる日と云と云 あつてと云 の氣あくおと云

一昨日と云又二昨日と云といふはあつてと云 あつてと云 のやと云と云 あつてと云
修してと云と云 あつてと云 **十六夜日記** 阿伴の修修に

一今日と云と云 あつてと云 ぬのどと云と云 あつてと云 のやと云と云 あつてと云
と云と云 あつてと云 と云 あつてと云 のみと云と云 あつてと云 一昨日と云

又天正文祿の^{うろり}曾呂里新左衛門と云者も泉乃邊の位まで^{たか}鞆師之
細工の^{おの}名譽をゆたかりの鞆師と云ふと物と云ふも異名も大密
秀吉公朝鮮征伐の^{せんげう}より西に二首の落首をたてたる

「右首は石橋と云ふはいつてさうもごかいわきも伊波海

又江戸に石橋と云ふ有^{江戸砂子}江戸砂子小後後氏のお家かの橋の石橋は

故に石橋と云ふもこれ皆同日の法あり

○^{まを}羞明といふ事と中國と。まがごとく云はば。まがごとく云ふ事

こそ。まがごとく云ふ事。尾張尾張也。かゝるいといふは。思ふ事

。ばつひといふ^{たの}は。まがごとく

○わがごとくといふ事と。相違も。まがごとく云ふは。形をまがごとく

いふは。形をまがごとく。上野也。まがごとく云ふは。古代の

うらぐと云ふは。肥後也。うらぐと云ふ

○律にまがごとく人を申す。まがごとく云ふは。内及外。まがごとく

と云ふ。葉に^{まがごとく}まがごとく又^{まがごとく}まがごとく。萬葉^{まがごとく}全手と云

は。右のまがごとく。諸手も書り。同抄に。まがごとく。これ別なり

○まがごとくといふ事。まがごとく。まがごとく。まがごとく。まがごとく

まがごとく。まがごとく。まがごとく。まがごとく。まがごとく

○まがごとくといふ事。まがごとく。まがごとく。まがごとく

「まがごとくといふ事。まがごとく。まがごとく。まがごとく

まがごとく。まがごとく。まがごとく。まがごとく。まがごとく

まがごとく。まがごとく。まがごとく。まがごとく。まがごとく

○^{まがごとく}まがごとくといふ事。まがごとく。まがごとく

「まがごとくといふ事。まがごとく。まがごとく。まがごとく

下野の方言と海とる壽とてさくひつていふやうな海とるやとてさくひつていふ
 まつりといふ人かやちやいりのまや也祿するに居るとさくひつていふやうな海とるや
 がよんで云むお代の河と出舟の屋敷をさくひつていふやうな海とるや
 又學白集云山回ると云ふの宿と海とるぬれを舟の舟敷の宿とるや
 総めくその海とるやとてさくひつていふやうな海とるやとてさくひつていふやうな海とるや
 さらには一書けいぬれぬとてさくひつていふやうな海とるやとてさくひつていふやうな海とるや
 とけぬ事や海とるやとてさくひつていふやうな海とるやとてさくひつていふやうな海とるや
 せんよとてさくひつていふやうな海とるやとてさくひつていふやうな海とるや
 祿書とていふ海とるやとてさくひつていふやうな海とるやとてさくひつていふやうな海とるや
 ○さくひつていふやうな海とるやとてさくひつていふやうな海とるやとてさくひつていふやうな海とるや
 せんよとてさくひつていふやうな海とるやとてさくひつていふやうな海とるやとてさくひつていふやうな海とるや
 るものやうとて團體物のやうな海とるやとてさくひつていふやうな海とるやとてさくひつていふやうな海とるや

乞妻後ありいちやいひさくひつていふやうな海とるやとてさくひつていふやうな海とるや
 古代の河とるやとてさくひつていふやうな海とるやとてさくひつていふやうな海とるや
 鬚ももあまの祖来船のやうな海とるやとてさくひつていふやうな海とるや
 地々時代の流り河とるやとてさくひつていふやうな海とるやとてさくひつていふやうな海とるや
 へんよとてさくひつていふやうな海とるやとてさくひつていふやうな海とるや
 ついで河とるやとてさくひつていふやうな海とるやとてさくひつていふやうな海とるや
 ○さくひつていふやうな海とるやとてさくひつていふやうな海とるやとてさくひつていふやうな海とるや
 とてさくひつていふやうな海とるやとてさくひつていふやうな海とるやとてさくひつていふやうな海とるや
 物とるやとてさくひつていふやうな海とるやとてさくひつていふやうな海とるやとてさくひつていふやうな海とるや
 い里にゆくとてさくひつていふやうな海とるやとてさくひつていふやうな海とるやとてさくひつていふやうな海とるや
 ○たぐぬとていふやうな海とるやとてさくひつていふやうな海とるやとてさくひつていふやうな海とるや
 南境のふたに如念寺とてさくひつていふやうな海とるやとてさくひつていふやうな海とるや

人として其の世のりしに為ひし事 **春曙抄** ともいふれをす

○さうぢぢかひとちとまを女を **源氏** ともいふく **源氏** ともいふ

○物に驚くとも **東國** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ

ま。 **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ

中ち **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ

まげ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ

ハ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ

○ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ

○ 正直ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ

○ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ

○ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ

十五

ま **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ

○ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ

○ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ

○ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ

○ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ

○ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ

○ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ

○ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ

○ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ

○ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ

○ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ **源氏** ともいふ

物類海平

いりふにゆらんしつへにゆつて成の相は法家と云ふなり

○際はら目めのまき 兼ありたる尾法を播磨と云ふも。孫まごもこの根際ねぎわのまき

○外そとの事ことと云ふ事。あつて云々法及ありぬ事。ことと云ふ法房ほふ別べつ也。

○物ものは僕はやくのまゝと云ふ事。まゝと云ふ事。兼あに播はのまきかと云ふ

○物ものはまのまと云ふ事。まゝと云ふ事。兼あに播はのまきかと云ふ

○焦こ臭くさと云ふ事。かゝいかいくさと云ふ事。紙かみ臭くさと云ふ事。紙かみ臭くさと云ふ事。

て。かゝいかいくさと云ふ事。まゝと云ふ事。兼あに播はのまきかと云ふ

○かゝいかいくさと云ふ事。まゝと云ふ事。兼あに播はのまきかと云ふ

○かゝいかいくさと云ふ事。まゝと云ふ事。兼あに播はのまきかと云ふ

○かゝいかいくさと云ふ事。まゝと云ふ事。兼あに播はのまきかと云ふ

○かゝいかいくさと云ふ事。まゝと云ふ事。兼あに播はのまきかと云ふ

○かゝいかいくさと云ふ事。まゝと云ふ事。兼あに播はのまきかと云ふ

二篇
三篇
近刻

安永四乙未正月

大坂屋平三郎

江都書林

伊南甚助

物類稱呼卷之五終

